

山科に「大塚らくわ食堂」オープン

子と高齢者おいしい交流

子どもたちと高齢者らの交流の場を目指した地域食堂「大塚らくわ食堂」が13日、京都市山科区の大塚児童館でオープンした。カレーライスと一緒に食べて、会話やゲームを楽しんだ。

第2土曜開催 「パワーももらえる」



①カレーライスを食べながら会話を楽しむ子どもと地域住民②用意されたカレーライスを受け取る子どもたち(京都市山科区・大塚児童館)

大塚学区社会福祉協議会の主催。児童館を利用する子どもと地域住民とのつながりを深めることを主目的に、3月ごろから児童館を運営する洛和会ヘルスケアシステムと検討を進めてきた。

この日のメニューは、民生委員ら地域ボランティアが作ったカレーライスとサラダ、ゼリー。小学1〜5年約30人が、「辛い?」「子どもの頃嫌いだっただ食べ物は?」と、住民と会話を弾ませながら、あつという間にたいらげた。指遊びや新聞紙を使ったかぶと作りなども楽しんだ。

土曜に児童館を利用するときはお弁当を持参していた大塚小5年の廣瀬巧知君(10)は「おいしかった。地域の人と楽しく食べることができた」と話し、下校時の見守り活動をしている中井啓司さん(81)は「子どもからパワーをもらえる」と笑顔だった。

第2土曜に開催。今回は子ども100円、大人300円だったが、メニューによって異なる。洛和会ヘルスケアシステムではほかに運営する四つの児童館でも順次、食堂を開催する予定。

(寺内 繭)